

2020年5月1日に開院したおぎはら耳鼻咽喉科、3年目がスタートしました。2羽のフラミンゴがダンスをしている2周年記念の装飾はご覧いただけただけでしょうか。フラミンゴはラテン語で「炎」を意味するflammaに由来しているそうです。3年目のカスタネット通信では、主に聞こえ、難聴、補聴器についてみなさんにお伝えしていく予定です。

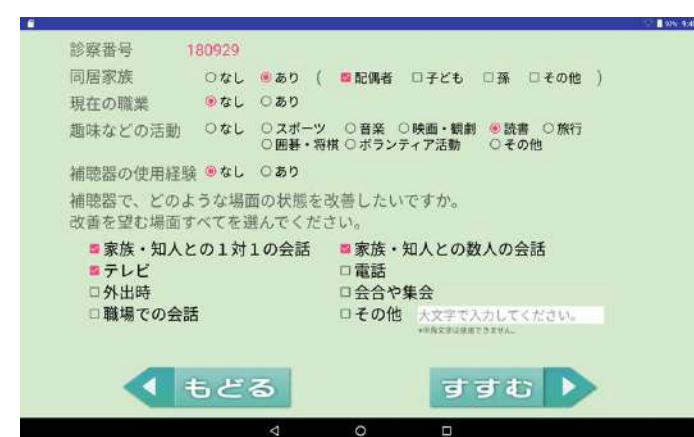
## 聴覚リハビリテーションの概要



聴覚リハビリテーション(Aural Rehabilitation Plan)は4月号でおはなしした、ペイシェント・ジャーニーの中のひとつの段階です。そしてこの聴覚リハビリテーションもいくつかの段階を経て進展します。今月号はこの聴覚リハビリテーションの概要をお伝えします。

## STEP1 評価

評価の段階では、**聞こえに関連する困り感**を調べます。聴力検査による難聴の程度に留まらず、例えば「家族には聞き返せるからいいけど、仕事で困る」「家族と一緒にテレビを見られないとつまらない」など、どのような場面で困るか、誰と一緒にいる時に困るかといったコミュニケーションの問題について、面接や質問紙を用いて評価をします。つまり、**難聴がもたらす問題の見極めの段階**です。



↑  
オギジビでは『きこえについての質問紙(2002)』を使用しています。

## STEP2 情報カウンセリング

情報カウンセリングでは難聴の特質や難聴の程度、聴力図、聴取能力への難聴の影響、補聴器の種類、価格、購入手続きなどを説明します。補聴器の試聴を希望する人、試聴を始めた人に伝えるべき情報は非常に多いため、情報カウンセリングは評価の後ばかりでなく、その後、補聴器適合の前後にも行います。



↑  
オギジビでは情報をわかりやすくまとめた資料をお渡ししています。

## STEP3 展開

言語聴覚士(ST)と難聴のある人が**意見交換しながら、目標を設定する段階**です。難聴のある人はSTEP2でSTが提供した情報をもとに、「聞こえにくさ」の影響を改善したい具体的な目標を立てます。例えば、家族との会話を楽しみたい、テレビを楽しみたい、職場で質問されたことにしっかり答えたいなど、その人の生活環境によって目標は様々です。





この時STは難聴のある人が目標を達成できるよう、複数の選択肢を提示し、その選択肢について一緒に考えます。選択肢にはもちろん補聴器の試聴が含まれますが、それだけではなく、手元にスピーカを置いてテレビの音を大きく聞く方法、音声を文字に変換する方法などもあります。

提案



『それぞれにとっての快適な生活を送る』という目的のためにSTと難聴のある人がパートナーシップを築くことが重要なのです。



## STEP4 実施

実際に補聴器の試聴を始めた後の段階です。オギジビの補聴外来では数カ月に渡って通院していただきながら、2~3種類の補聴器を試しますが、その段階に相当します。

コミュニケーションストラテジー訓練、アサーション・トレーニングなど、この段階に含まれるものの中には聞きなれないことばもありますが、これらについては、別の機会に詳しくご説明いたします。

### 実施の内容

- ① 補聴器適合  
候補・評価・適合・順応
- ② 聴取補助機器
- ③ 集団フォローアップ
- ④ その他
  - ・ コミュニケーション  
ストラテジー訓練
  - ・ 読話と聴能訓練
  - ・ 電話訓練
  - ・ アサーション・  
トレーニング
  - ・ カウンセリング
  - ・ 心理社会的支援

## STEP5 結果の評価

STEP4の段階が済んだ後、たとえば、補聴器によって難聴のための行動制限や参加制限がどの程度軽減されたか、未解決の問題は残っていないか、などを評価します。これは以前ご紹介した、ペイシエント・ジャーニーの『適応』の段階と重複する部分があると思います。数字で評価できるものとしては、語音明瞭度検査やデータログによる装用時間の記録があります。また、補聴器の装用で得られた恩恵や利益、満足度を尋ねる質問紙など、主観的な評価もあります。

## STEP6 フォローアップ

自身の補聴器を装用し始めた後も、定期的に聞こえの状況や補聴器の調子を確認します。問題があれば、その都度対応します。

カスタネット通信5月号では、ペイシエント・ジャーニーの中のひとつの段階である、聴覚リハビリテーションの概要をおはなししました。難聴であることが引き起こす生活への困難さは多岐にわたり、その困難さへの対応は補聴器をつけて終わり、という単純なものではないということが分かります。これからもオギジビの補聴外来では、補聴器の試聴を行う方々、個々のニーズに合わせた対応を心がけたいと思います。